

東京新聞

「海燕」誌上(二一五月号)で展開された反核運動や世界観をめぐる埴谷雄高と吉本隆明の、大論争、

波 小 波 大

は、最後はお互いの私生活批判のようになってしまいい、どうも後味が悪かった。埴谷の吉本批判はすこぶる陰惨だったし、一方の吉本だって、もう六十歳にもなって『アンアン』での「コム・デ・ギャルソン」

でもあるまいに、と感ぜられた。

こうして一件落着と思っ

ていたら、『朝日ジャーナ

ル』七月十九日号が「吉本

・埴谷論争を斬る」という

吉本・埴谷論争後日談

7/19

と阿呆になれ、吉本ノ」と語っているのは、まことに痛快だ。

ビートたけしは、どちら

かといえは吉本に与(く

み)しているのだが、「吉

様だ」「埴谷さんの背後には、行動する吉本さんに対して暗黙の非難を浴びせるヤツがいっぱいいるんだよ、卑しいヤツらがさ」といった調子で吉本・埴谷論争の暗さを一気に吹きとぼす明るい調子である。

「オレからすれば、昔の

特集をやっている。「高度

資本主義社会の大衆と知識

人」といったタイトルはい

かにも大袈裟(おおげさ)

だが、タレントのビートた

けしが「お笑い芸人からの

メッセージ」として「もっ

本さんは頭がカリアゲだ

し、ギャルソンを着た『ア

ンアン』の写真をタイの

若者が見れば、チェッカー

ズのお父さんに見間違えら

れるんじゃないの。悪魔

(埴谷の言う)どころか神

利子で食っている人たちだ

から、自分の地位(資産)

の保全に異常な気くばりを

している」という痛烈なパ

ンチに、ご両人はいかに応

えるべきか。

(安保世代)